

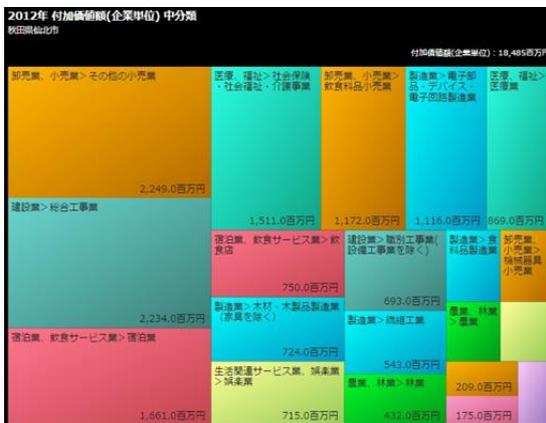
13 仙北市

(1) 産業の構造から見た仙北市の産業

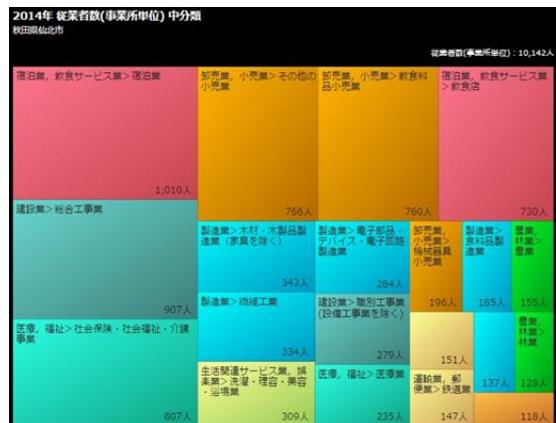
付加価値額では、小売業の「その他の小売業」、「飲食料品小売業」が1、5番目に大きく、「総合工事業」が2番目に大きい。「宿泊業」が3番目に大きいのは本市の特徴である。また、多くの産業が小差で並んでいる点も特徴に挙げられる。

従業者数では、「宿泊業」など対個人サービス業や、「その他の小売業」などの小売業が多い。また、「総合工事業」が2番目、「社会保険・社会福祉・介護事業」が3番目に従業者が多い。従業者数に関しても、多くの産業に分散する傾向がある。

【図表 1 1 8】付加価値額



従業者数

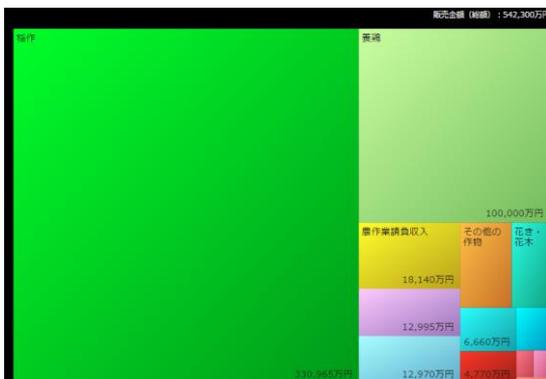


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

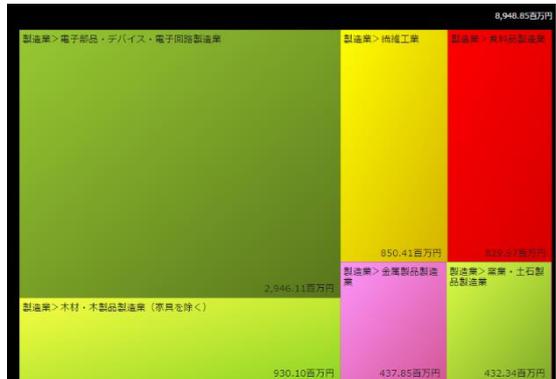
(2) 農業の構造・製造業の構造から見た仙北市の産業

農業の販売金額では「稲作」が全体の6割、「養鶏」が2割程度となっている。製造業の付加価値額では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が全体の3割強を占め、続いて「木材・木製品製造業（家具を除く）」、「繊維工業」、「食料品製造業」が大きい。

【図表 1 1 9】販売金額



付加価値額



「産業構造マップ／農業／農業の構造」

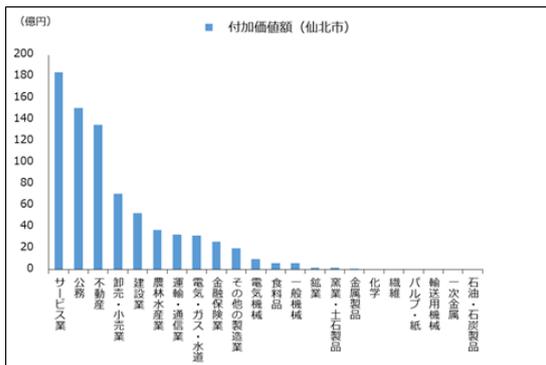
「産業構造マップ／製造業／製造業の構造／付加価値額」

(3) 地域経済循環マップから見た仙北市の産業

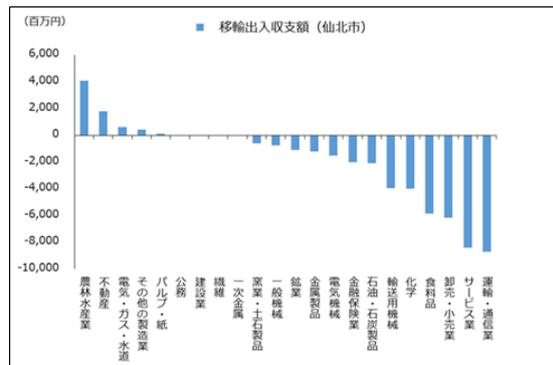
付加価値額に関しては、「サービス業」、「公務」、「不動産」に続き、「卸売・小売業」、「建設業」などが大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」が最大のプラスとなっており、「電気・ガス・水道」、「その他の製造業」（木材・木製品）もプラスである。

【図表 1 2 0】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た仙北市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数から見ると、突出して大きなウェイトを占める産業がなく、卸売・小売業、建設業、対個人サービス業、医療福祉、製造業など幅広い産業が付加価値や雇用を作り出している。「宿泊業」、「飲食店」などが上位にあるのは、温泉郷、武家屋敷などの観光資源が豊富な本市の特徴となっており、観光関連の産業が重要な位置を占めている。

製造業では、付加価値額で「電子部品・デバイス・電子回路製造業」や「木材・木製品製造業（家具を除く）」のウェイトが大きい。

「農林水産業」を除くと、移輸出入収支額が大きな産業がないのが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

本市の強みである観光資源を活かすためには、付加価値額で上位にある「宿泊」や「飲食」などをさらに振興し域内での消費増加を図る方向性が有効である。

また、外貨を稼ぐ産業である農林水産業の付加価値を高めるため、観光業や食料品製造業との連携を図る方向性が有効である。農業の販売金額において、「稲作」に続いて「養鶏」が大きいことや、本市が地方創生特区を活用し国有林を生かした養豚を計画していることを考え合わせると、畜産品の加工による高付加価値化がその候補として考えられる。

製造業では、付加価値額の大きい「電子部品・デバイス・電子回路製造業」や「木材・木製品製造業（家具を除く）」の関連産業の振興や誘致という方向性が考えられる。

想定されるKPIとしては、「飲食店」、「宿泊業」や、「食料品製造業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」などの付加価値額、移輸出入収支額などが挙げられる。

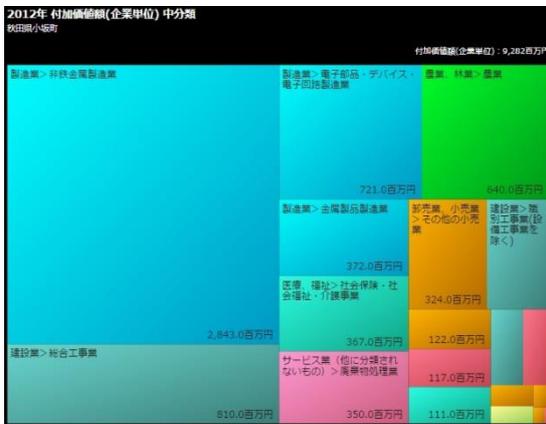
14 小坂町

(1) 産業の構造から見た小坂町の産業

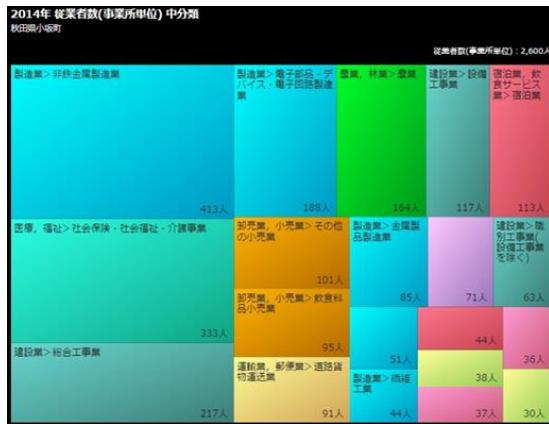
付加価値額では、製造業の「非鉄金属製造業」が全体の3割を占め、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「金属製品製造業」と合計すると4割強となる。「総合工事業」が2番目に大きい。また、「農業」が4番目に大きいことも特徴である。

従業者数では、「非鉄金属製造業」が最も多くの雇用を生み出し、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」も4番目に従業者が多い。医療福祉、建設業も従業者が多い。「農業」が5番目に多い雇用を確保していることも特徴である。

【図表121】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

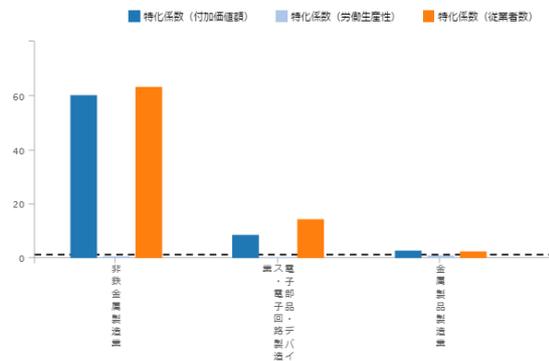
(2) 農業の構造・特化係数から見た小坂町の産業

農業の販売金額では、「稲作」を上回り「養豚」が1位であることは、県内で本町と鹿角市のみの特徴である。製造業の付加価値額や従業者数の特化係数を見ると、「非鉄金属製造業」が60前後を示し、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」も1を大きく超えることが特徴である。

【図表122】販売金額



特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）

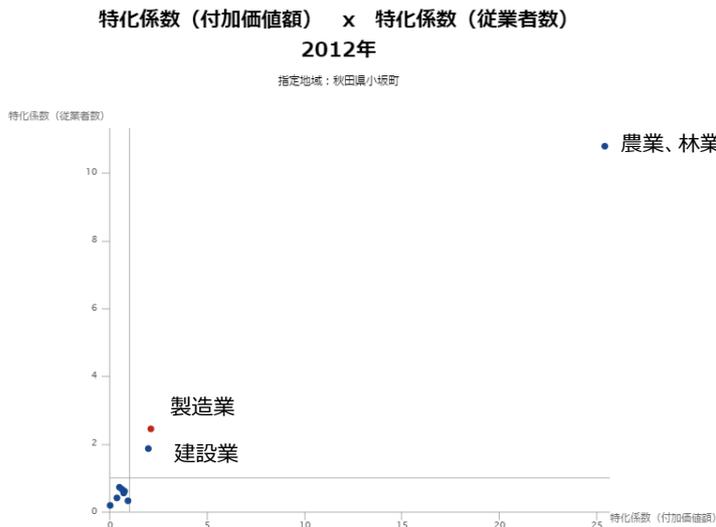


「産業構造マップ／農業／農業の構造」「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／特化係数で見る」

(3) 特化係数から見た小坂町の産業

付加価値額と従業者数の特化係数をクロスさせた産業分布を見ると、付加価値額と従業者数の両方で「農業、林業」が他の産業を大きく引き離しており、本町の産業で養豚が大きなウェイトを占めることを反映している。

【図表 1 2 3】特化係数（付加価値額・従業者数）

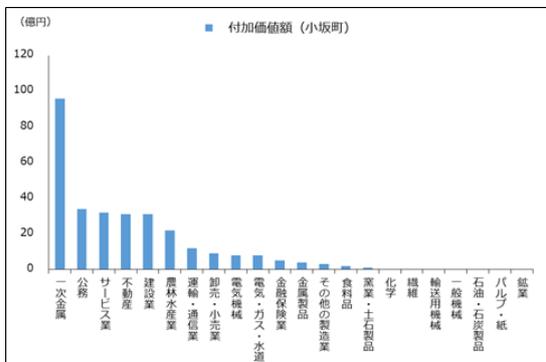


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／散布図で分析／産業の分布を見る」

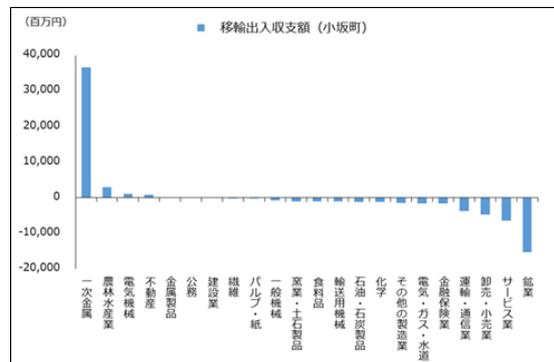
(4) 地域経済循環マップから見た小坂町の産業

付加価値額及び移輸出入収支額に関して、「一次金属」が突出して大きく、本町の産業における移輸出入収支額のプラスのほとんどを占めている。また、「農林水産業」、「電気機械」もプラスとなっている。

【図表 1 2 4】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

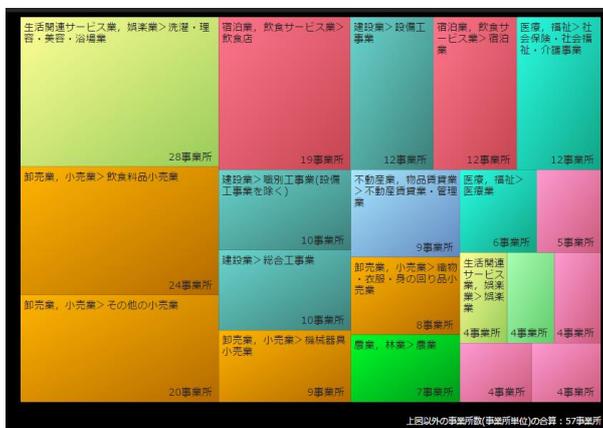
(5) RESAS から見た小坂町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数及び移輸出入収支額に関して、「非鉄金属製造業」、「一次金属」が突出して大きなウェイトを占め主力産業となっている。旧・小坂鉱山の流れを汲む精錬技術を活かし、廃電子基盤等のリサイクル原料から金・銀・銅などの非鉄金属を回収する産業に発展させていることが独自の強みである。

また、畜産業を中心とする「農業」が大きな付加価値、雇用を生み出していることも本町の特徴となっており、移輸出入収支額でもプラスとなっている。

一方で、全産業の事業所数に表れているように、事業所数が極めて少ないことは産業面の弱みといえる。

【図表 1 2 5】 事業所数



「産業構造マップ／全産業の構造／事業所数（事業所単位）」

(6) 産業振興の方向性と想定される K P I

独自のリサイクル技術を活用するためには、技術力の向上や関連産業との連携などの方向性が考えられる。

畜産業を中心として外貨を稼ぐ産業となっている農業を活用する観点からは、移輸出入収支額がマイナスとなっている食料品製造業をプラス転化させることが重要である。そのためには、畜産業と食料品製造業の連携のほか、事業所数が少ないことから新たな事業所の誘致や起業促進、他地域との連携なども振興策として想定される。

また、特徴的な製造業の業種が多いことを踏まえると、製造業全般の振興と、農林水産業の振興が重要である。

想定される K P I としては、非鉄金属製造業や関連する製造業、及び食料品製造業、農林水産業の付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

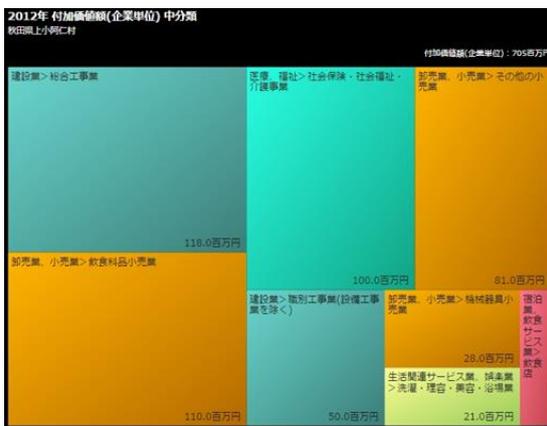
15 上小阿仁村

(1) 産業の構造から見た上小阿仁村の産業

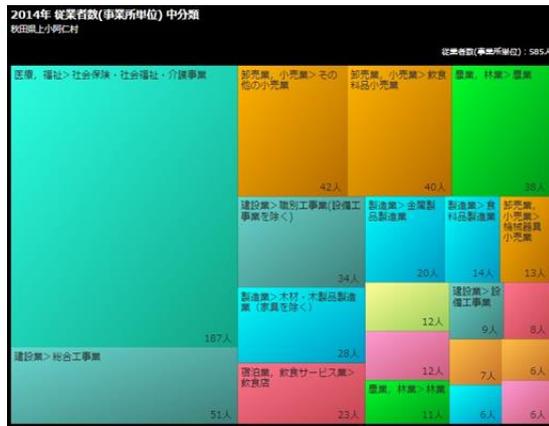
付加価値額では、「総合工事業」、「種別工事業（設備工事業を除く）」など建設業や、「飲食料品小売業」、「その他の小売業」などの小売業のウェイトが大きい。また、「社会保険・社会福祉・介護事業」は3番目に大きい。

従業者数では、「社会保険・社会福祉・介護事業」が最も従業者が多く、付加価値額と同様に、建設業や小売業も大きなウェイトを占める。

【図表126】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造・事業所数から見た上小阿仁村の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の83%を占め、続いて「その他畜産」が多い。事業所数を見ると、最も多い「種別工事業（設備工事業を除く）」でも13事業所であり、「その他の小売業」など他の産業は事業所数が10以下に留まる。

【図表127】販売金額



事業所数



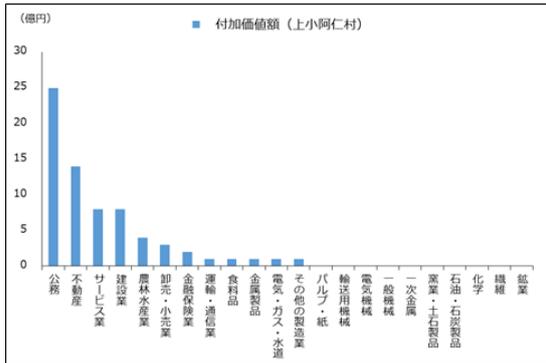
「産業構造マップ／農業／農業の構造」 「産業構造マップ／全産業の構造／事業所数（事業所単位）」

(3) 地域経済循環マップから見た上小阿仁村の産業

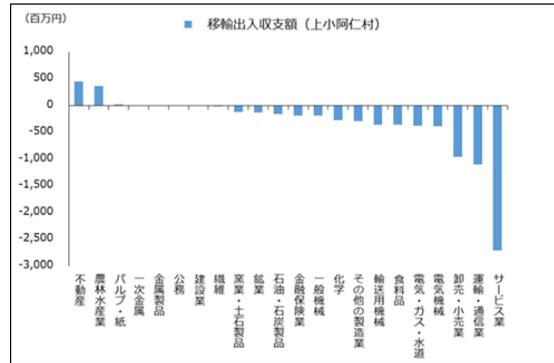
付加価値額に関して、「公務」、「不動産」、「サービス業」の順に大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」がプラスとなっている点が特徴である。反面、移輸出入収支額がプラスの産業が少ないことが弱みである。

【図表 1 2 8】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た上小阿仁村の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数に関して、建設業、小売業、医療福祉が大きなウェイトを占めるが、移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」がプラスであることが特徴である。「農林水産業」は、米に加え、べいなす、ズッキーニ等の野菜などの出荷により域外から外貨を稼ぐ産業となっているが、農業の部門別販売金額を見ると、「稲作」が8割超を占める。また、従業者数において「林業」が比較的上位にあるのが特徴である。

一方、事業所数が少ないことに表れているように産業全体の規模が小さく、外貨を稼ぐ産業も少ないことが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

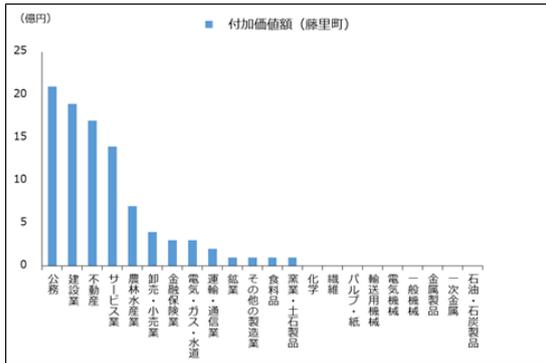
移輸出入収支額から考えると、外貨を稼ぐ産業となっている農業の振興が重要と考えられる。「稲作」以外の農産物を振興するためには、野菜の栽培技術向上等による出荷量の増加や、食料品製造業との連携による村の特産品開発という方向性が有効である。食料品製造業の事業所が少ないという点を考慮すると、農業者自身が農産物の加工等に取り組む6次産業化の推進も方法の一つである。

想定される K P I としては、農業などの付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

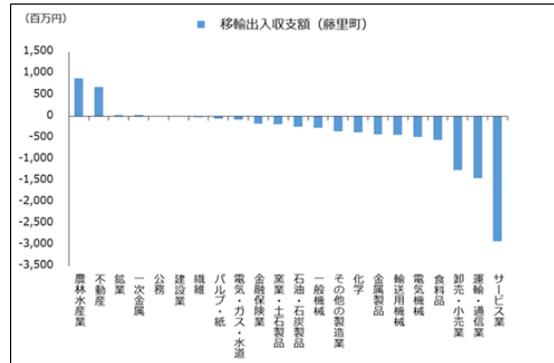
(3) 地域経済循環マップから見た藤里町の産業

付加価値額に関して、「公務」、「建設業」、「不動産」、「サービス業」の順に大きい。移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」がプラスとなっている点が特徴である。

【図表 1 3 1】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た藤里町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数に関して、「社会保険・社会福祉・介護事業」が大きなウェイトを占める点が特徴である。また、「農業」、「林業」は一定の雇用を生み出しており、移輸出入収支額に関して「農林水産業」がプラスとなっている。

反面、経済規模が小さく、「農林水産業」を除くと域外から外貨を稼ぐ産業がほとんどないことが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

「農林水産業」の移輸出入収支額がプラスであり、「農業」、「林業」が一定の雇用を確保していることから考えると、本町の特徴である農業や林業の振興が重要と考えられる。世界遺産・白神山地を活用した観光の振興と農産物、林産物の加工を結び付ける方向性が考えられる。

また、食料品製造業など製造業の事業所が少ないことを考え合わせると、農業者や林業者が販売や加工の分野に取り組む6次産業化や他地域の販売業、製造業との連携も選択肢として考えられる。

想定されるKPIとしては、「農業」、「林業」などに関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

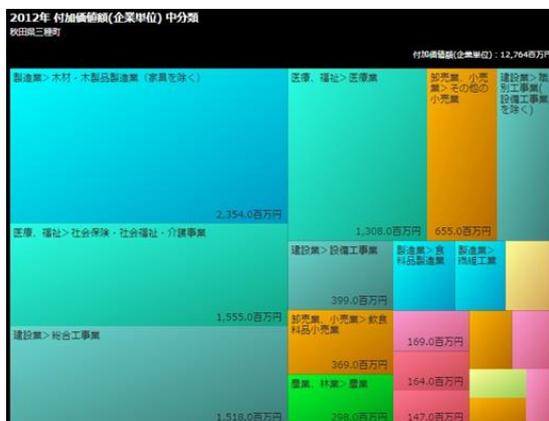
17 三種町

(1) 産業の構造から見た三種町の産業

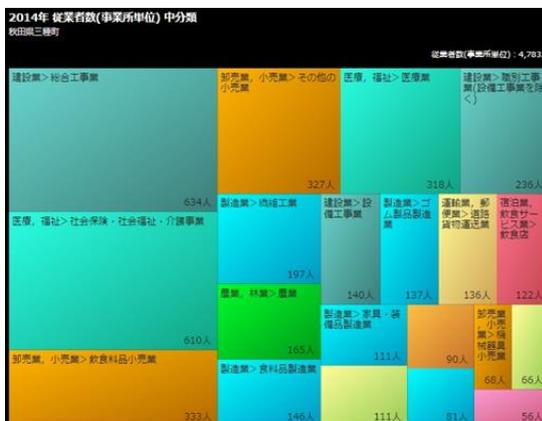
付加価値額では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」が最も大きく、全体の2割弱を占める点が特徴である。続いて、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」など医療福祉、「総合工事業」が大きい。製造業では、「木材・木製品製造業」以外では「食料品製造業」、「繊維工業」が大きい。

従業者数では、「総合工事業」、「職別工事業（設備工事業を除く）」など建設業、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」など医療福祉、「飲食料品小売業」、「その他の小売業」など小売業が多くの雇用を生み出している。

【図表 1 3 2】付加価値額



従業者数

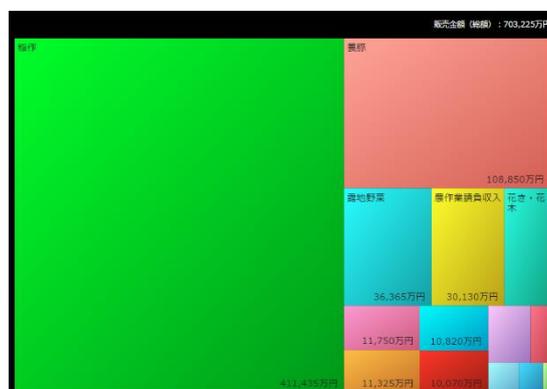


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た三種町の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の6割弱を占める。続いて「養豚」、「露地野菜」が多い。

【図表 1 3 3】販売金額



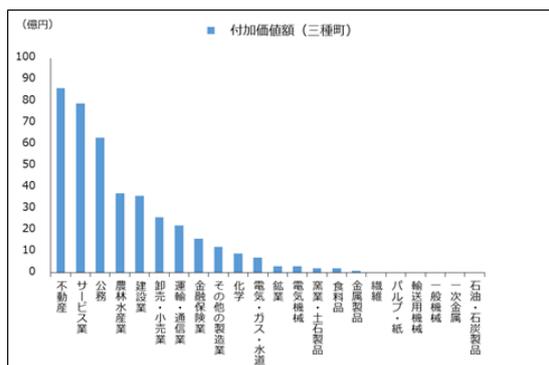
「産業構造マップ／農業／農業の構造」

(3) 地域経済循環マップから見た三種町の産業

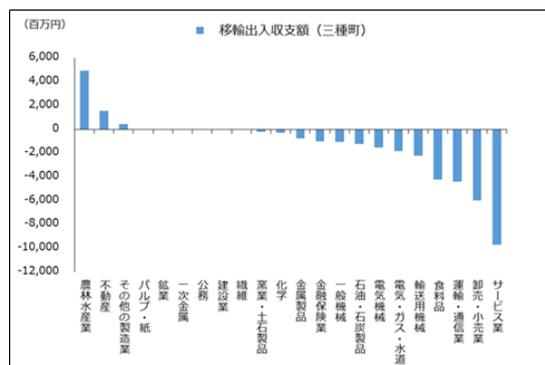
付加価値額に関しては、「不動産」、「サービス業」、「公務」の順に大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」がプラスの大部分を占めるのが特徴である。また、「その他の製造業」（木材・木製品）もプラスとなっている。

【図表 1 3 4】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た三種町の産業の特徴、強み・弱み

「木材・木製品製造業（家具を除く）」は、付加価値額に関して最大の産業であることが特徴であるが、移輸出入収支額の面では、大きなプラスとなっていないという点が弱みである。製造業に関しては、「木材・木製品製造業」以外では、「食料品製造業」、「繊維工業」の付加価値額が大きい。

一方、「農林水産業」は、稲作、養豚に加え、じゅんさい、メロンなどの特産品を有し、移輸出入収支額でプラスの大部分を占め、外貨を稼ぐ産業となっている。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

「農林水産業」の移輸出入収支額がプラスであることから考えると、ジュンサイやメロンなど本町の特産品のブランド化、食料品製造業と連携した高付加価値化という方向性が考えられる。

想定される K P I は、農業及び食料品製造業の付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

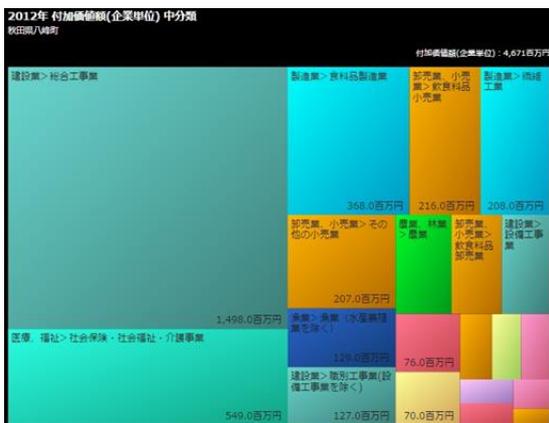
18 八峰町

(1) 産業の構造から見た八峰町の産業

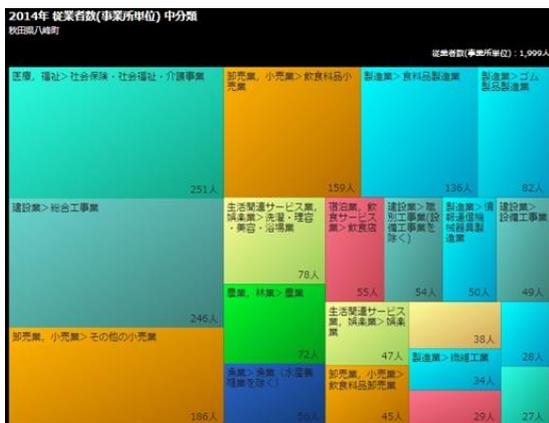
付加価値額では、「総合工事業」が最も大きく、全体の3割強を占める。続いて、医療福祉、「食料品製造業」、「繊維工業」などの製造業、小売業が大きい。

従業者数では、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「総合工事業」が1、2番目に多くの雇用を生み出しており、「その他の小売業」などの小売業、「食料品製造業」などの製造業も従業者数のウェイトが高い。

【図表135】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

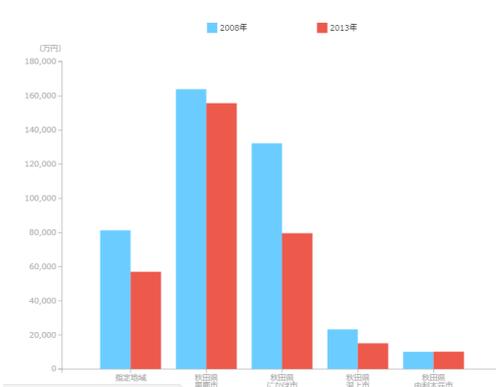
(2) 農業の構造、海面漁獲物等販売金額から見た八峰町の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の約46%である。「その他の作物」が全体の4割弱と大きいのは、しいたけ等が寄与している。海面漁獲物販売金額では、本町は県内市町村の中で男鹿市、にかほ市に続いて3番目に大きい。

【図表136】販売金額



海面漁獲物等販売金額



「産業構造マップ／農業／農業の構造」

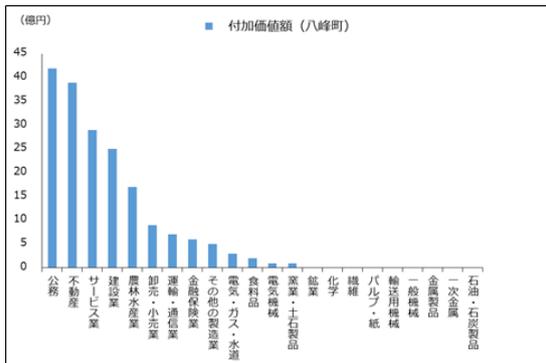
「産業構造マップ／水産業／海面漁獲物等販売金額」

(3) 地域経済循環マップから見た八峰町の産業

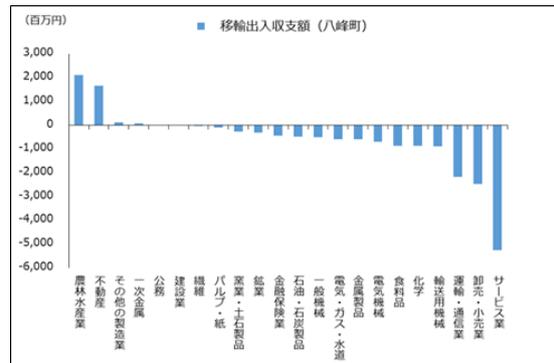
付加価値額に関しては、「公務」、「不動産」、「サービス業」に続いて、「建設業」、「農林水産業」が大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」が最大のプラスとなっている。農業ではしいたけ等の栽培が盛んなことに加え、海面漁獲物販売金額が県内市町村の中で3番目に大きいことが影響している。

【図表 1 3 7】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た八峰町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数では、建設業、医療福祉、小売業のウェイトが大きい。製造業においては、付加価値額と従業者数の両面から「食料品製造業」が主要産業と考えられる。移輸出入収支額の面では、しいたけ等の栽培や水産業の発達を背景に「農林水産業」が最大のプラスとなっている。

一方、「農林水産業」を除くと、移輸出入収支額でプラスとなっている産業が少ない点が弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

本町ではしいたけ（菌床しいたけ）の栽培や、白神あわびなどの育成に力を入れていることから農林水産業が強みとなっており、引き続き農林水産業の振興に取り組むという方向性が考えられる。

さらに、「農林水産業」の移輸出入収支額がプラスである点、県内市町村の中で海面漁獲物販売金額が多い点から考えると、特産品である白神あわびや、しいたけなどの水産物を活かして「食料品製造業」の付加価値向上を図り外貨を稼げる産業へ育てる方向性が有効である。

想定される K P I としては、「農林水産業」及び「食料品製造業」の付加価値額、移輸出入収支額などが挙げられる。

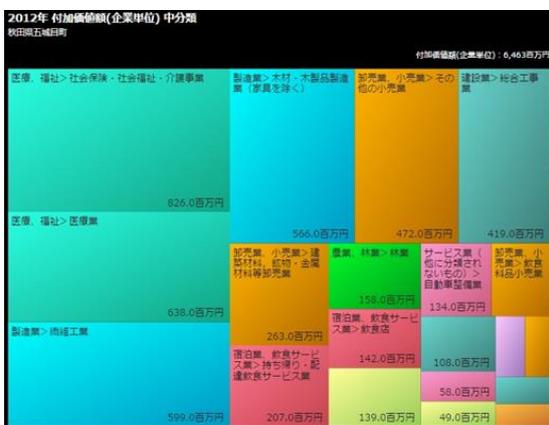
19 五城目町

(1) 産業の構造から見た五城目町の産業

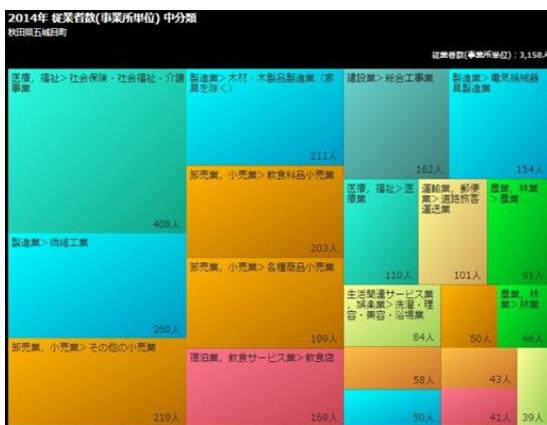
付加価値額では、医療福祉分野の「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」が1、2番目に大きい。製造業の「繊維工業」、「木材・木製品製造業（家具を除く）」が大きいことが特徴である。「その他の小売業」、「総合工事業」も比較的大きい。

従業者数では、「社会保険・社会福祉・介護事業」が最も多く、「繊維工業」、「木材・木製品製造業（家具を除く）」などの製造業、「その他の小売業」などの小売業も多くの雇用を確保している。

【図表138】付加価値額



従業者数

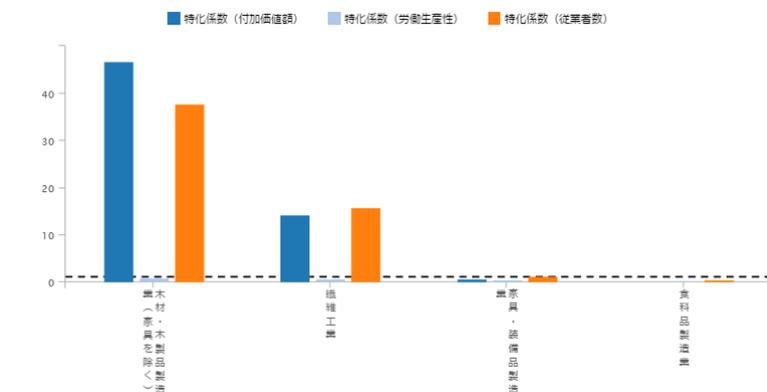


「産業構造マップ/全産業の構造/付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）/中分類で見る」

(2) 特化係数から見た五城目町の産業

付加価値額と従業者数の特化係数を見ると、「木材・木製品製造業（家具を除く）」と「繊維工業」が1を大きく超えており、特に「木材・木製品製造業（家具を除く）」は係数が30～40と大きいことが特徴である。

【図表139】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）



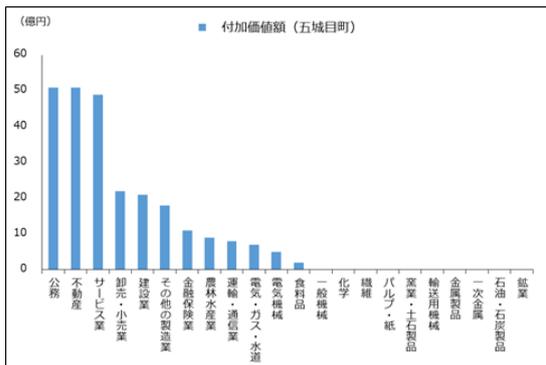
「産業構造マップ/稼ぐ力分析/グラフ分析/特化係数（付加価値額順）で見る」

(3) 地域経済循環マップから見た五城目町の産業

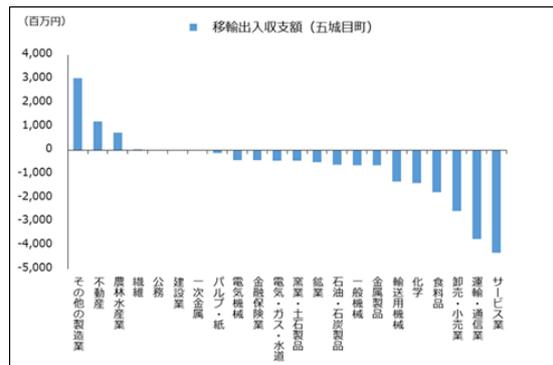
付加価値額に関しては、「公務」、「不動産」、「サービス業」に続いて、「卸売・小売業」、「建設業」が大きい。

移輸出入収支額に関しては、「その他の製造業」（木材・木製品）が最も大きい。また、「農林水産業」及び「繊維」もプラスとなっている。

【図表 1 4 0】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た五城目町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数では、医療福祉や小売業のウェイトが大きい。これに加えて、「繊維工業」、「木材・木製品製造業」などの製造業のウェイトが高い点が特徴である。移輸出入収支額に関しては、「その他の製造業」（木材・木製品）が最大のプラスとなっているが、これは製材・集成材などの生産拠点が立地している効果と考えられる。

また、「繊維工業」は付加価値額及び従業者数の特化係数が大きく、移輸出入収支額もプラスとなっていることから本町の特徴となっている。

一方、「木材・木製品製造業（家具を除く）」の特化係数を見ると付加価値額、従業者数は高いものの、労働生産性が低い点が弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

「その他の製造業」の移輸出入収支額が最大のプラスである点から考えると、「木材・木製品製造業（家具を除く）」の振興が有効である。そのためには、木材加工の高度化を図り競争力を高めるという方向性が考えられる。また、本町の特徴である「繊維工業」の付加価値向上も重要である。

想定される K P I は、「木材・木製品製造業」や「繊維工業」に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

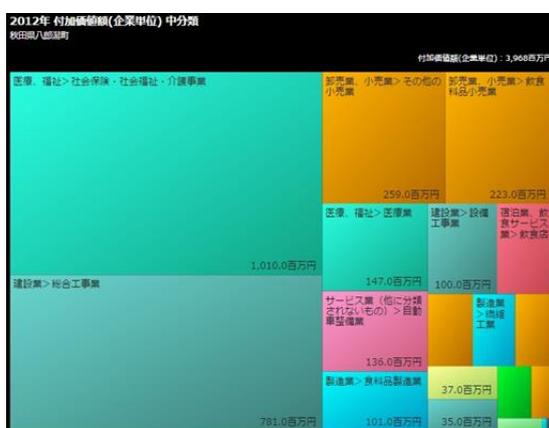
20 八郎潟町

(1) 産業の構造から見た八郎潟町の産業

付加価値額では、医療福祉分野の「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」が大きく、合計で全体の3割弱を占める。続いて、建設業の「総合工事業」、「設備工事業」、小売業の「その他の小売業」、「飲食料品小売業」が大きい。

従業者数では、医療福祉の「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」が多くの雇用を生み出しており、「その他の小売業」などの小売業、「総合工事業」などの建設業も従業者が多い。

【図表141】付加価値額



従業者数

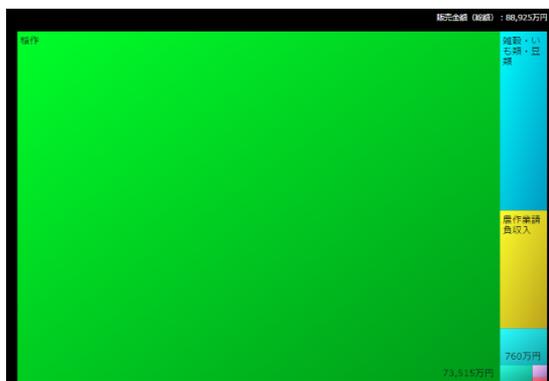


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た八郎潟町の産業

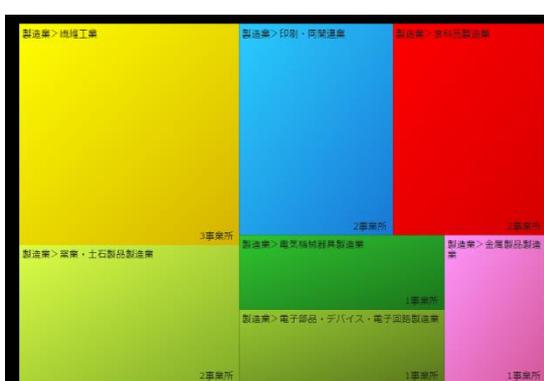
農業の販売金額では、「稲作」が全体の約83%と極めて大きなウェイトを占める。次に、「雑穀・いも類・豆類」が大きいと全体の約4%に留まる。製造業の事業所数を見ると、「繊維工業」、「窯業・土石製品製造業」、「印刷・同関連業」、「食料品製造業」など数は多くないものの多分野の事業所が立地している。

【図表142】販売金額



「産業構造マップ／農業／農業の構造」

事業所数（製造業）



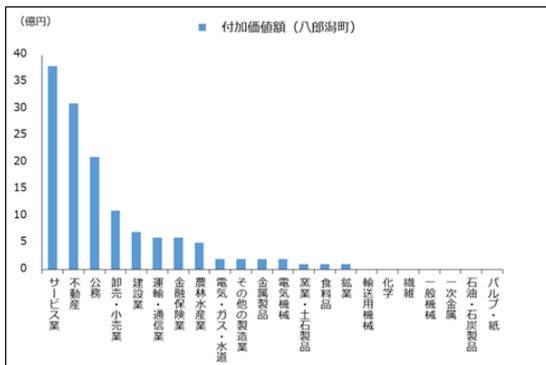
「産業構造マップ／製造業の構造／事業所数」

(3) 地域経済循環マップから見た八郎潟町の産業

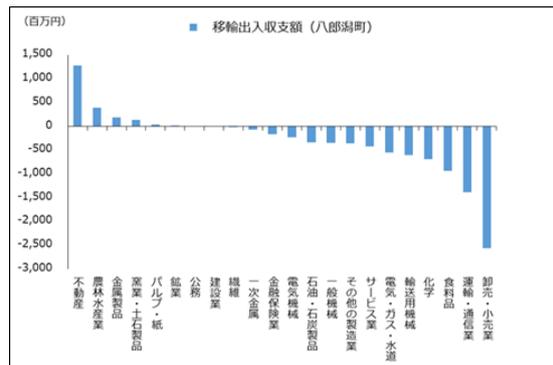
付加価値額に関しては、「サービス業」、「不動産」、「公務」に続いて、「卸売・小売業」、「建設業」が大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」や「金属製品」などがプラスとなっている。

【図表 1 4 3】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た八郎潟町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数では、医療福祉、建設業、小売業のウェイトが大きい。ただし、これらの産業が外貨を稼ぐ産業となっていない点が弱みである。

製造業に関しては、「食料品製造業」、「繊維工業」など付加価値額や従業者数は大きくないものの、多分野の企業、生産拠点が立地していることが特徴である。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

「農林水産業」の移輸出入収支額がプラスである点から考えると、農業の振興や農業と食料品製造業の連携による付加価値向上という方向性が有効と考えられる。ただし、本町の農業は稲作のウェイトが非常に大きいことを考慮すると、農産物加工を振興するためには畑作等への転換も含めた複合経営の方向を探ることも必要と考えられる。また、製造業で多分野の企業等が立地することから、技術力・開発力の向上などによる製造業全体の振興という方向も重要である。

想定されるKPIは、「農業」や「製造業」に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

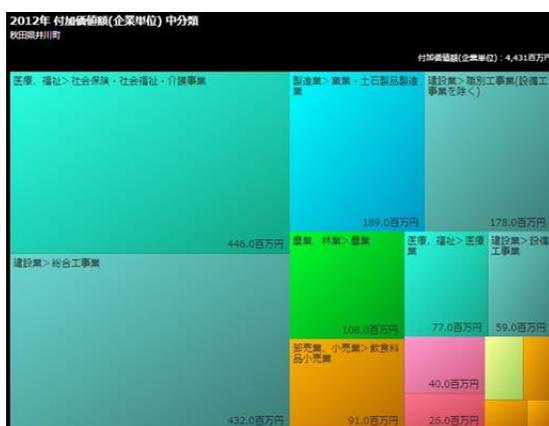
21 井川町

(1) 産業の構造から見た井川町の産業

付加価値額では、「社会保険・社会福祉・介護事業」が最も大きい。建設業の「総合工事業」、「職別工事業（設備工事業を除く）」は2、4番目に大きい。「窯業・土石製品製造業」、「農業」も比較的大きな付加価値を生み出している。

従業者数では、「輸送用機械器具製造業」が最多で全体の4分の1を占めるのが特徴である。続いて、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「飲食料点小売業」、「総合工事業」の従業者が多い。

【図表144】付加価値額



従業者数

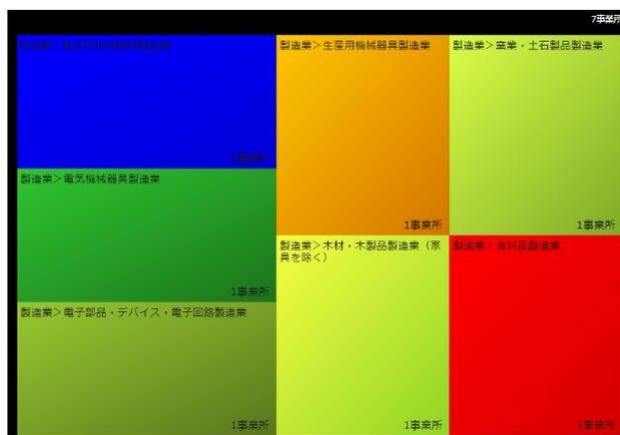


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 製造業の構造から見た井川町の産業

製造業の事業所数を見ると、主力の「輸送用機械器具製造業」をはじめ、「電気機械器具製造業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」など各業種とも1事業所にとどまっている。

【図表145】事業所数



「産業構造マップ／製造業／製造業の構造／事業所数」

22 大潟村

(1) 産業の構造から見た大潟村の産業

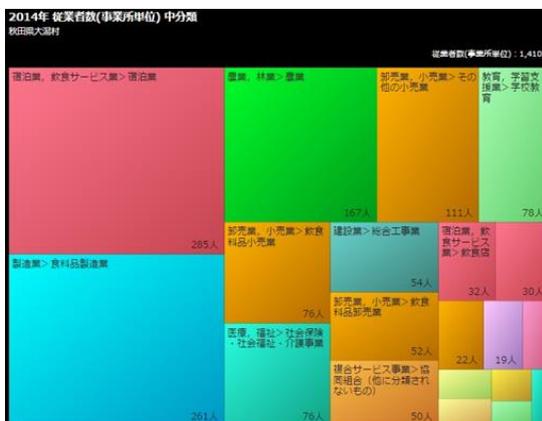
付加価値額では、「食料品製造業」が全体の約3割を占め、続いて「農業」が2割近くを占める。「総合工事業」が3番目、卸小売業の「無店舗小売業」、「飲食料品卸売業」が4、5番目に大きい。

従業者数では、「宿泊業」が最も多い点が特色である。「食料品製造業」、「農業」が2、3番目に多い。また、「その他の小売業」など小売業も比較的多い。「学校教育」が5番目に多いことも特徴であるが、秋田県立大学のキャンパスが立地する影響とみられる。

【図表147】付加価値額



従業者数

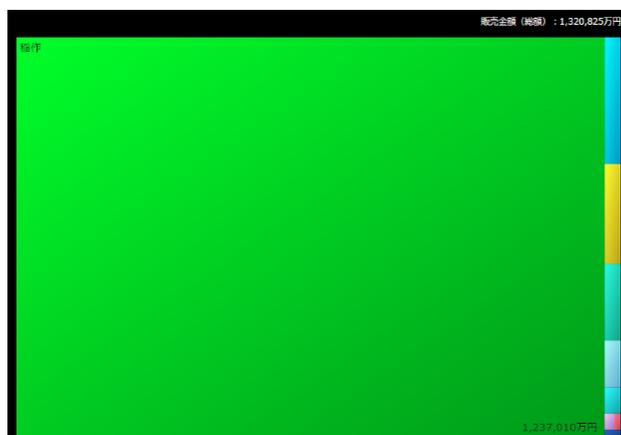


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た大潟村の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の約94%と極めて大きなウェイトを占め、稲作に特化した農業となっている。

【図表148】販売金額

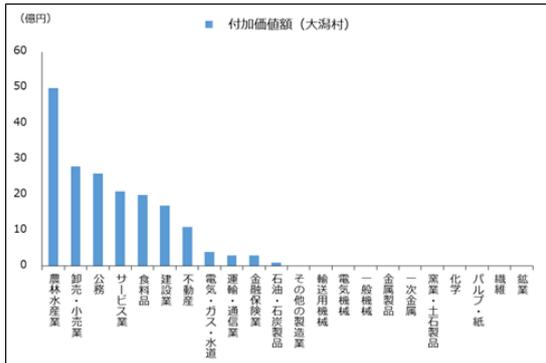


「産業構造マップ／農業／農業の構造」

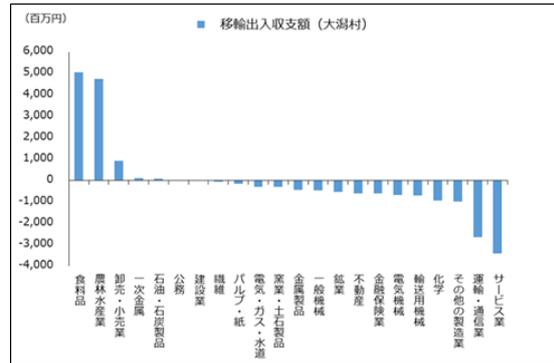
(3) 地域経済循環マップから見た大湊村の産業

付加価値額に関しては、「農林水産業」、「卸売・小売業」が1、2番目に大きい。移輸出入収支額に関しては、「食料品」と「農林水産業」の二つでプラスの大部分を生み出しており、「卸売・小売業」もプラスとなっている。

【図表 1 4 9】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た大湊村の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数、移輸出入収支額などの各面で、「農業」や農産品を活用した「食料品製造業」が圧倒的に大きなウェイトを占めており、農業に特化した村といえる。

移輸出入収支額で「卸売・小売業」がプラスとなっていることは、本村の大きな特徴である。これは、付加価値額で「無店舗小売業」が上位にあることも考え合わせると、農産物や農産加工品を全国の消費者に対して直接販売を行っていることを反映していると考えられる。

一方で、農業構造が稲作に大きく偏っており、米価の変動に地域経済が影響を受けやすい点が弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

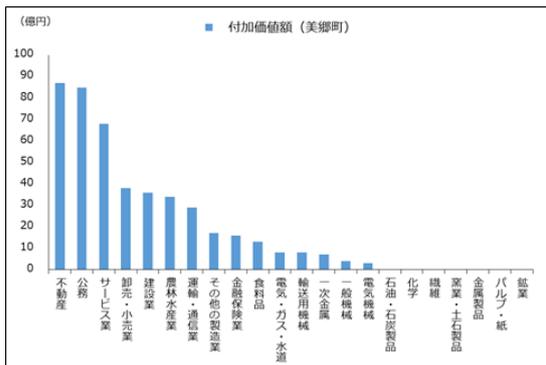
強みを活かすという点から考えると、現在も行われている「農業」と「食料品製造業」の連携をさらに深め、地域内で付加価値を高めて外貨を獲得するという方向性が有効である。また「宿泊業」の従業者数が最多ということも考慮すると、田園景観やジオパークを活用した観光振興と農業、食料品製造との連携も有効である。

想定されるKPIとしては、「農業」、「食料品製造業」や卸・小売業に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

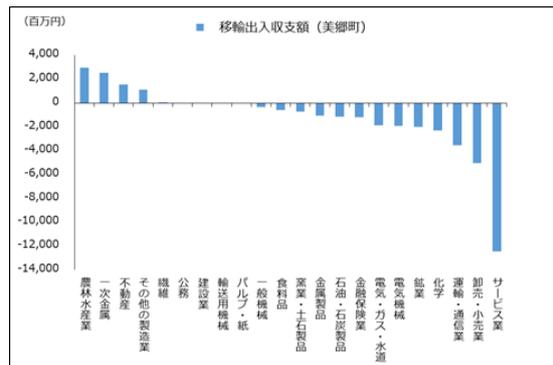
(3) 地域経済循環マップから見た美郷町の産業

付加価値額に関しては、「不動産」、「公務」、「サービス業」に続いて、「卸売・小売業」、「建設業」、「農林水産業」が大きい。移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」のプラスが最も大きく、「一次金属」、「その他の製造業」（なめし革・同製品・毛皮など）などの製造業もプラスとなっている。

【図表 152】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た美郷町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の面では、建設業、医療福祉、小売業が大きなウェイトを占める。一方、移輸出入収支額の面では、「農林水産業」や「一次金属」がプラスとなっており、米を中心とする農産物や非鉄金属の出荷により外貨を稼いでいる。

製造業の付加価値額では、「輸送用機械器具製造業」や「繊維工業」が上位にあるなど、様々な業種の生産拠点が立地していることが特徴である。

一方、移輸出入収支額がプラスの産業が少ないこと、総体のプラスの金額が少ないことが弱みとなっている。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

「農林水産業」の移輸出入収支額がプラスという点から考えると、「農業」と「食料品製造業」の連携という方向性が考えられるが、そのためには「稲作」以外の農産物の振興が課題である。また、様々な業種の特色ある製造業が立地していることから、製造業全体の技術力向上や、企業間連携の可能性を探ることが重要と考えられる。

想定される K P I としては、「食料品製造業」、「一次金属」などの製造業に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

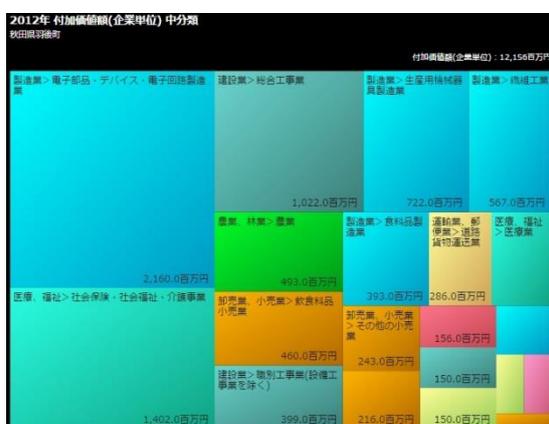
24 羽後町

(1) 産業の構造から見た羽後町の産業

付加価値額では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が最大、「生産用機械器具製造業」、「繊維工業」が4、5番目に大きいなど、製造業のウェイトが大きい。また、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「総合工事業」が2、3番目に大きい。

従業者数では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が最も多い雇用を生み出し、「繊維工業」も3番目に多い。また、「社会保険・社会福祉・介護事業」が2番目、「総合工事業」が4番目に多い。

【図表153】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た羽後町の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の4割弱と半分を下回る。「養豚」、「酪農」、「肉用牛」、「養鶏」といった畜産関係が大きく、この4つを合計すると全体の3割を占める。

【図表154】販売金額



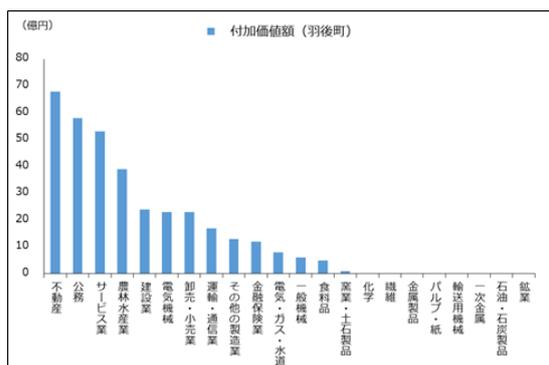
「産業構造マップ／農業／農業の構造」

(3) 地域経済循環マップから見た羽後町の産業

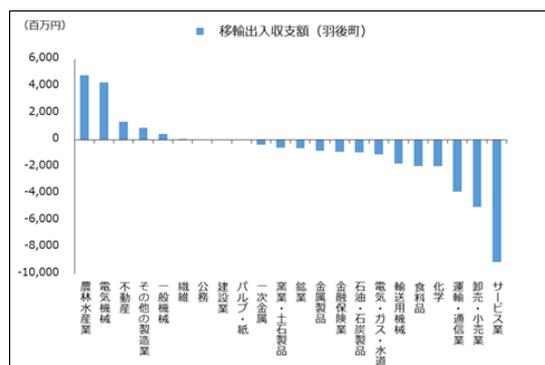
付加価値額に関しては、「不動産」、「公務」、「サービス業」に続いて、「農林水産業」、「建設業」、「電気機械」が大きい。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」と「電気機械」でプラスの大部分を占める。製造業の「その他の製造業」（なめし革・同製品・毛皮製造業、その他の製造業）、「一般機械」もプラスである。

【図表 155】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た羽後町の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数、移輸出入収支額の各面から、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」のウェイトが大きいことが特徴である。電子部品の生産拠点が立地することにより、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」は主力産業となっている。これ以外にも「生産用機械器具製造業」、「繊維工業」など製造業が発達している。

移輸出入収支額の面からは、「農林水産業」のプラスも大きい。「農林水産業」は米、肉用牛、メロンなどの出荷により外貨を稼ぐ産業となっている。

一方、稲作や畜産などの農業が主要産業となっているものの、「食料品製造業」は付加価値額が小さく、移輸出入収支額もマイナスである点が弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

産業の強みを活かす観点からは、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」をはじめとする製造業の振興が重要である。そのためには、関連産業の誘致や既存企業間の連携の可能性を探ることが必要と考えられる。

また、本町がDMOを設立し観光振興を図っている点を考慮すると、西馬音内盆踊りなど観光資源を活用するため、「農業」や「食料品製造業」と観光の連携を図り地域ブランドを高めることが重要である。

想定される K P I としては、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「食料品製造業」等の製造業や「農業」に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

25 東成瀬村

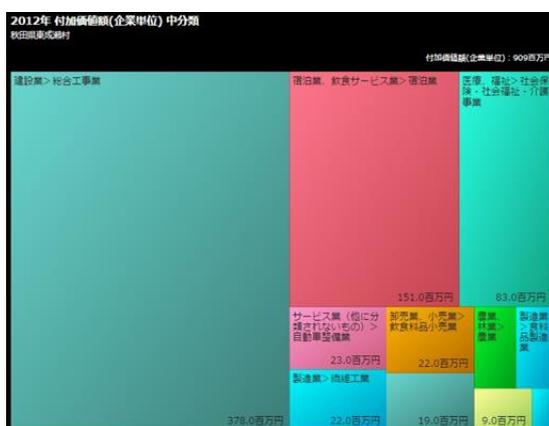
(1) 産業の構造から見た東成瀬村の産業

付加価値額では、「総合工事業」が最も大きく全体の4割強を占めることが特徴である。続いて「宿泊業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」が2、3番目に大きく、上位の3産業を合計すると全体の6割を超える。

従業者数では、「総合工事業」が最も多く、続いて「宿泊業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「農業」が多い。

付加価値額、従業者数とも「宿泊業」が2番目に多いことが特徴である。

【図表156】付加価値額



従業者数

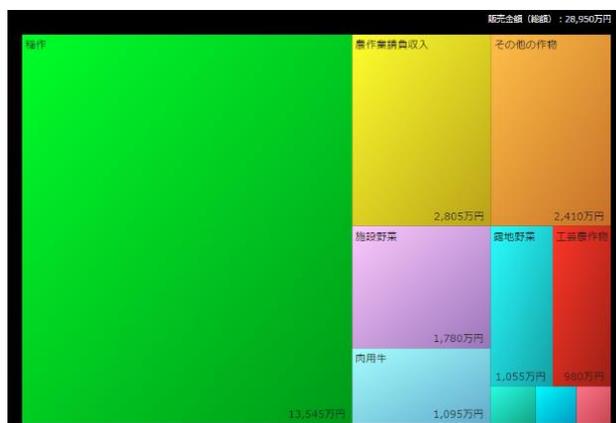


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た東成瀬村の産業

農業の販売金額では、「稲作」が全体の47%と約半分を占める。続いて「農業請負収入」、「その他の作物」が大きい。

【図表157】販売金額



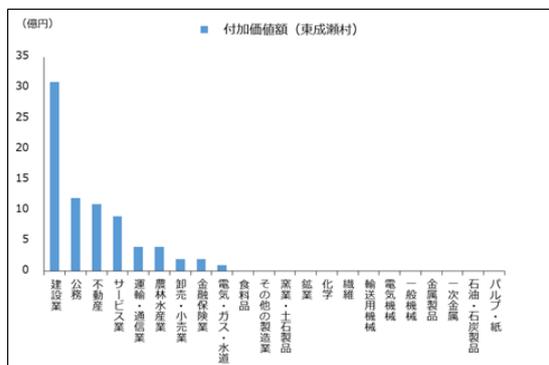
「産業構造マップ／農業／農業の構造」

(3) 地域経済循環マップから見た東成瀬村の産業

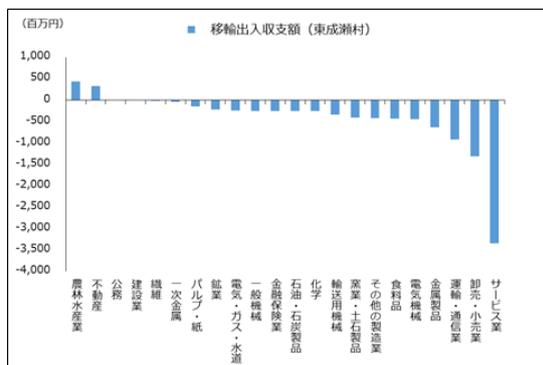
付加価値額に関しては、「建設業」が突出して大きいことが特徴である。

移輸出入収支額では、「農林水産業」がプラスであるが金額的には小さい。

【図表 158】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た東成瀬村の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の面で、「総合工事業」のウェイトが非常に大きい。これは成瀬ダム建設の影響があると考えられる。移輸出入収支額の面では、米、トマト、食用牛などを生産する「農林水産業」のプラスが最大であり、外貨を稼ぐ産業となっている。

付加価値額及び従業者数の両面で「宿泊業」が2番目に多いという特徴がある。これは、温泉やスキー場などの観光資源を有していることの反映と考えられる。

一方、移輸出入収支額の面からは、外貨を稼ぐ産業が少なく、プラスの金額も小さいことが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

移輸出入収支額がプラスの「農林水産業」を活用する観点からは、「農業」と「食料品製造業」の連携により域内で付加価値をさらに高めるという方向性が有効と考えられる。具体的な方策としては、肉用牛を活用した加工食品開発などが考えられる。

また、「宿泊業」の付加価値額と従業者数が多く地域経済への影響が大きいことを考慮すると、観光誘客による「宿泊業」の振興と、農林水産業及び食料品製造業の連携により地域内での消費額を増加させる方向性が有効である。

想定されるKPIとしては、「宿泊業」や「農業」、「食料品製造業」に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。